

## 調査項目 ⑤「事例調査、各都市プロフィールとHPデータの再整理」

調査年次 令和2年度（11次調査）

### 目的

公園緑地に関する個別課題について、各都市の現状や対応状況を、調書、文献調査、ヒアリングを通じて把握・整理し、今後の施策展開の参考に資する事を目的とする。加えて、大都市の基本的なデータを整理した「大都市プロフィール」について、最新データへの更新を行った。また、令和元年度の大都市調査結果については、協会HP内の専用ページに調査項目ごとに内容を整理し登録作業を行った。

### 概要

以下の5つのテーマについて事例調査を行った。

- ①「都市公園の駐車場有料化の考え方」に係る事例調査
- ②「夜の公園の利活用」に係る事例調査
- ③「プレーパークの管理運営」に係る事例調査
- ④「里山地の整備・運営手法」に係る事例調査
- ⑤「都市公園における新型コロナウイルス感染症対策」に係る事例調査

### 結果

- ①都市公園の駐車場は公園施設としての前提から、利用対象者を公園利用者とするのが一般的である。駐車場を整備する公園の規準を明確にしている都市は少なく、公園規模や施設、公共交通機関の状況などの立地により個別に決定されている状況にある。そこで本調査では、駐車場有料化の課題やニーズ等の条件の事例を収集し整理した。
- ②一般的に都市公園は、日中は多様な利用があり賑やかであるが、日没後の夜間の活用はそれほど多くは無い。しかし近年においては、イルミネーション等をはじめとした夜間の公園の利活用により、新たな魅力を創出している事例も出てきている。その一方で「都市公園」という性質上、夜間の利活用においては安全面を懸念する利用者は多い。そこで本調査は各都市の夜間の公園の利活用事例を収集し整理した。
- ③子どもたちのより自由な遊び空間として都市公園を活用するため、禁止事項をなるべく少なくしたプレーパーク等の取組が今後さらに注目される。このことから、プレーパーク等により都市公園を子どもの自由な遊び場として活用している事例を収集し整理した。
- ④平成20年の生物多様性基本法の施行、平成23年の生物多様性地域連携促進法の施行などにより都市公園でも里山エリアを整備するなど、生物多様性等を目的とした里山保全の取組が進められてきた。その運営においては市民協働による事例も少なくない。一方で、生活上の必要性が低下している里山の持続可能性を見いだせるだけの経済的効果が得られにくいことや、高齢化による担い手の不足が課題となってきた。そこで、都市公園となっている里山の整備手法や市民協働による里山の保全運営について効果的な手法について事例を収集し整理した。
- ⑤改正新型インフルエンザ等対策特別措置法による初の緊急事態宣言発令に至った新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、都市公園においても利用者増やそれに伴う駐車場、大型遊具等の閉鎖など大きな影響を及ぼしている。このため、調査対象自治体が管理する都市公園において、どのような管理運営上の対策が取られたのかを、時系列を追って把握するとともに、国による緊急事態宣言など、国・都道府県等が行なった都市公園の利用に関わると考えられる発令等の状況事例を収集・整理した。